

手妻公演資料

30分 手妻公演 例

公演時間は“30～40分”を目安にしておりますがご希望でしたら“10～120分”程度まで調整可能です。お問い合わせ時に仰って下さい。またご希望の演目が御座いましたら併せて仰って下さい。

藤山新太郎の手妻公演のBGMはすべて生演奏にすることが出来ます。道具を置き、邦楽を並べた舞台はまさに豪華絢爛の一言。どうぞ江戸手妻をご堪能下さい。



双つ引出し (3分)

双つ引出しは、元々別々のからくり箱だったものを上下二段の一つの引出にすることで二つの手妻を合体させました。「玉の隠現」と「水とのべ出し」は本来別の芸です。しかし、見た目にはよくまとまっています。如何にも江戸時代の情緒を持った味わい深い作品です。

<口上> (2分)

お椀と玉 (5分)

別名品玉とも言い、江戸時代の人気手妻です。太夫と才蔵（アシスタント）との掛け合いが面白い。



柱抜け(10分)

幕末から明治にかけて日本に入ってきた新手妻です。両手の親指を紙縫りで結んでしまいます。その状態で刀や輪を手がすり抜けてしまいます。

<蝶の話> (3分)

蝶のたはむれ (7分)

手妻の最高傑作で、柳川一蝶斎という手妻師が生涯をかけて完成させました。紙で作った蝶を扇子であおいで飛ばすという芸。しかしそこにはストーリーがあります。「出逢い」や「別れ」、一枚の紙で蝶の一生を語る芸それが「蝶のたはむれ」です。



<終演> (計 30分)